宮にもたち給ふべきに、西宮殿○源高明の御むこにておはしますにより、御をとゝの圓融院つぎの宮にひきこされさせ給へるほどなどの事ども、いとゝいみじく侍り、そのゆゑは、式部卿爲平御門にねさせ給ひなば、西宮殿高明の御ぞうによの中うつりて、源氏の御さかえになりぬべければ、御をぢたちのたましひふかく非道に御おとゝをひきこし申させたてまつらせ給へるぞかし、世のなかにも宮の中にも、殿ばらのおぼしかまへけるをば、いかでかはゑらん、次第のまゝにこそはと、式部卿宮の御事を思ひ申たりしに、俄に若宮圓融院御ぐしかいけづり給へなど御めのとたちに仰せられて、大入道殿○藤原兼家御車にうちのせたてまつりて、北の陣よりなんおはしましけるなどこそつたへ承りしか、されば道理あるべき御かたの人たちはいかゞはおぼされけん、その此宮たちあなたおはせしかど、ことしもあれ、威儀のみこをさへせさせ給へりしよ、み給へりける人もあはれなる事にこそ申けれ、そのほど西宮殿御心ちよな、いかゞおぼしけん、さてぞかし、おそろしくかなしき御事どもいできにしは、かやうに申も中々にいとゝいとことおろかなりや、かくやうの事は人中にてげらうの中にいとかたじけなし、とゞめさぶらひなん、されどなほわれながらふあひの物にておぼえ候にや、

○按ズルニ、大鏡ニ、おそろしくかなしき御事どもいで來にしかば云々ト云ヘルハ、高明ガ流竄ニ遇ヘルヲ指セルナリ、

〔大鏡三左大臣師尹〕この大臣は、忠平の大臣の五郎、小一條大臣と聞えさすめり、○中略康保四年十二月に左大臣にうつり給ふ事、西宮の筑紫へ下り給ふ御かはりなり、○中略その御事のみだれは、この小一條の大臣のいひいで給へるとぞ世の人聞えし、さてその年も過さず、うせ給ふなどこそ申すめりしか、それもまことにや、

〔源平盛衰記十六〕滿仲讒西宮殿事